

鈴木ひとみ市政報告

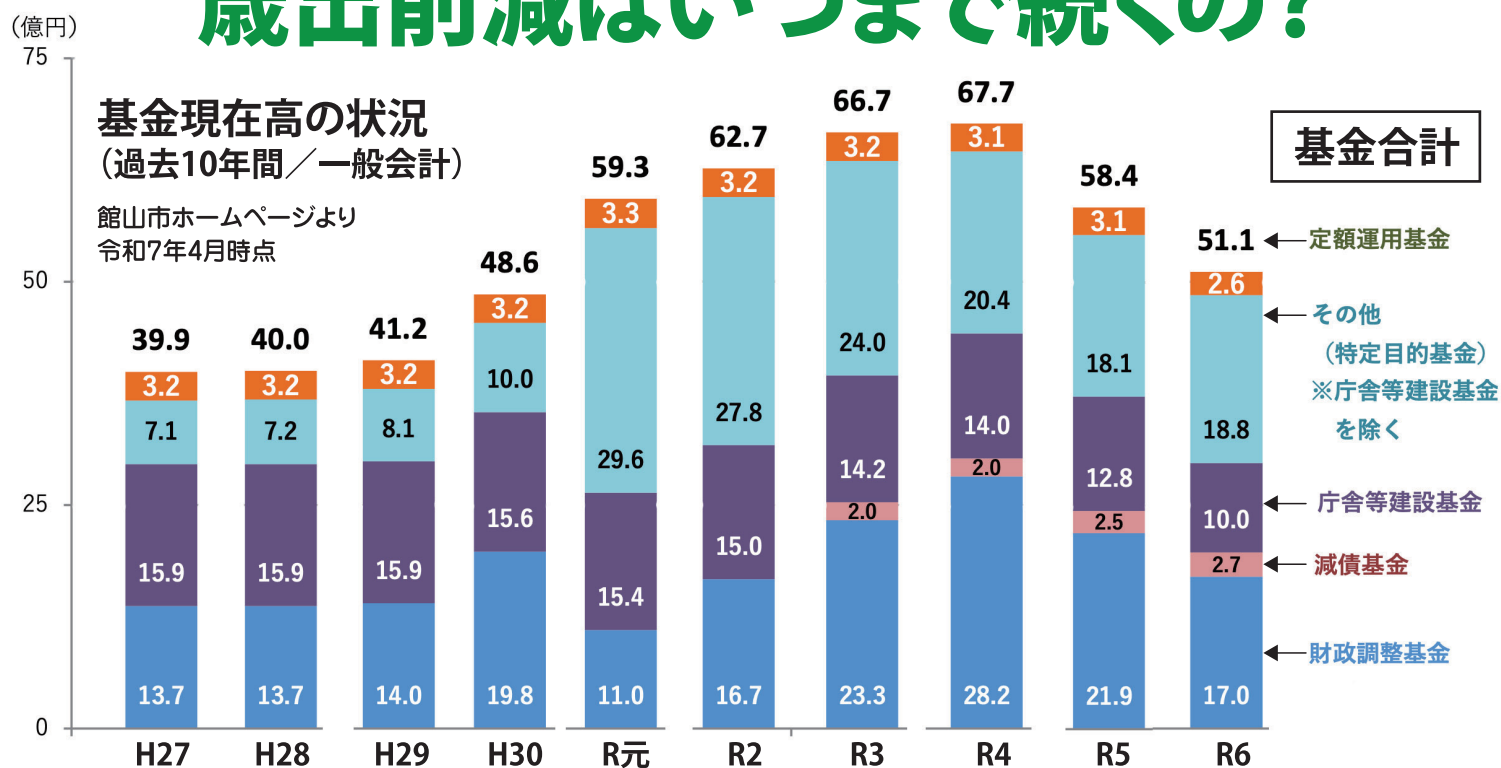
ごあいさつ 暑く長かった夏もようやく終わり、秋の訪れを感じるようになりました。この夏、地球温暖化の影響は大きく、「この先もっと暑くなったらどうなるのだろう」と不安の声を多く聞きました。現状を認めない大国の指導者もいて、今後の対策には不安が大きいのですが、自分たちの生活の見直しでできることを少しずつでも積み重ねてい

きたいと思います。

ノーベル化学賞の受賞が決まった北川進博士の「金属有機構造体」は特定の分子を閉じ込めることができるので、CO2や窒素酸化物などの削減に活用できるよう実用化のための研究が進められているそうです。科学の進歩にも期待したいところです。

令和7年9月市議会定例会 一般通告質問から

今後の財政見通しについて 歳出削減はいつまで続くの？



20年以上前から財政が厳しいといわれ続けて、「館山市は何を言っても「お金がない」だからね。」という声が多く聞かれます。議会での一般通告質問のやり取りの中でも、「財政状況が厳しいので」「市の厳しい財政状況では」という言葉が何度も出てきます。

市の財政調整基金(非常時や不足時に使う市の貯金)の残高は、第4次行財政改革方針(令和5年～令和9年)での予想された9億4千万円より多く、約17億円です。清掃センターの改修工事、館山中学の整備の費用は、物価高騰により当初の予算をかなり超過したのですが、市債の残高(市が将来返す約束をして借りたお金)は228億3千万円で増加額は10億円に抑えられています。これには、市職員の努力が大きかったと思いますが、緊縮財政が続く状況では、閉塞感がつのります。

令和9年度からは市債の返還額が現在の18億円から

21～22億円に増える見込みなので、更に財政は厳しくなります。市としては、職員業務の効率化、事業の見直しによる歳出削減、ふるさと納税による収入の増加など様々な努力を行っていますが、厳しい財政状況は続くとのことでした。

財政状況の改善のためには、市経済の活性化による市税収入の増加を図りたいところです。市内事業者の新規事業の展開、起業促進を後押しする取り組みが有効であると考えます。

「子育てしやすい環境」を整備し、「温暖で住みやすいまち」をアピールして、子育て世代の移住を促していくことも大切です。

財政難は、館山市に限ることではなく、多くの地方自治体が抱える課題です。税の配分方法の見直しなど、国の制度改正も望まれます。